

優しく強い子に！



http://www.minamih.net/
19・5・1(水)
令和元年・5・1
南NEWS no 14

高尾戦で見えた課題

- ①首を振って5つ観ていないから自分の相手をマークしきれず得点されている。常に同一視の徹底を！
- ②首を振って5つ観ていないから密集しているところへさらに突っ込んでいく。落とさせて逆サイドへのサイドチェンジがほとんどない。周りを観て、判断して意識的にサイドチェンジができたらもっと効果的な攻めができる。相手を疲労させることもできる。後ろの声は神の声！DF陣のコーチングの充実！！
- ③北斗七星ができない。MF・DFのスプリントが少ないのでトップが孤立することが多い。数的優位が保たず、攻撃に厚みがない。
- ④ドリブルのキレがない。抜けない、ぶつけてしまう。アタッキングゾーンでのドリブルは最大の威力を発揮する。脅威を与えるペナの中にドリブルで切れ込むチャレンジがほしい。
- ⑤後半、南の子がバテてきたとき、高尾のゲームメイカーは横ドリブルで南の守備をずらしておいてターンでかわし、できたスペースへスルーパスを出してチャンスを創っていた。見習いたい！
- ⑥つるべの徹底が甘いから、中央を突破されてもカバーできない。

※元イングランドサッカー協会のコーチ、チャールズヒューズ氏は、その著書『サッカー 戦術とチームワーク』岡野秀一郎訳の中で、サッカーの基本的な要素は次の3つであると述べています。※今2回目を読んでいます。

- ①フィットネス 試合開始から終了まで走り通す力、スタミナ。
- ②理解力 フィールドのいろいろな地域でどのようにプレーしたらよいかをよく理解している力
- ③技術 個々のレベル、チームのコレクティブな技術のレベルの向上が求められる。

※南の6年生はサッカーを始めて長い子で6年。3要素の課題はたくさんあるはず。あります！！

でも、“即座の修得ができるゴールデンエイジ”，黄金世代と言われる君達の年代は、どんなテクニックも即座に修得できるレディネス(身体や運動神経の準備)が備わっているのです。上手くなりたい、強くなりたいと努力すれば必ず成果は上がるのです。その努力が自信になり、後の人生に生きることになるのです。

カラースを2-2まで追い詰めた力をさらにアップさせましょう！！

6年生 春季カップ準々決勝

2019/4/28(日)川町G

○《試合のめあて》

5つ観てコーチング、プレスバック、渡り廊下を使う、当たり負け・走り負けしない、試合を楽しむ

○南八王子0-2高尾 前半0-1



練習試合

南八王子0-0西八 前半0-0

※西八はこの日2連勝してカップ戦の決勝戦に進出です。おめでとう！！

《当日の様子》
どの相手もこのステージまで進出するチームは強豪ぞろいのなかで、これまで何度も対戦して苦手にしている高尾さんとの対戦です。いつも立ち上がりで失点するパターンを脱却すべく、試合前のアップでは、入念にダッシュを重ねて挑みました。その甲斐あってか、序盤からよく競り合っ互角の勝負で進みます。南最初のシュートは、前線で相手ボールを奪ったセイジュン君の左足からサイドネットを狙った惜しい展開、その後何度も左サイドからのトウイ君、ワヘイ君を起点に再三のチャンスを作りますが、ゴールに至りません。

相手の決定的なシュートにも、GK シオン君がファインセーブで防ぎます。しかし前半18分、ふとした気の緩みでカウンタ気味の中央パスで突破され、先制点を許してしまいます。めあてに挙げたプレスバックが徹底できず悔やまれる失点で、前半は終了します。

まだ挽回の余地は十分ありと信じて入った後半は、相手も布陣を変え、一方的な防戦になります。キーパーソンに挙げていた相手7番へのアプローチが甘く、縦横無人に展開を許しピンチが続きます。

反撃の雰囲気を感じられないまま後半8分、フリーで撃たれたシュートを一旦GKがセーブするも、そのこぼれ球を押し込まれ、追加点を取られます。南守備陣が棒立ちになり、サポートできなかった悔やまれる失点で、このままタイムアップ。春季カップの戦いはベスト8で終わりました。

メンバーが多い南が1試合で終わってしまい、事務局のカラースさんのお計らいで、この日決勝戦進出を決めた西八王子さんに、控えメンバー主体でTMを組んで頂きました。圧勝して南の底力を示したかったところでしたが、結果はスコアレスでした。勝負へのこだわりには欠ける一戦ながら、交流戦を通じて、自分たちにも気持ち次第でチャンスがあることを、少しでも実感してほしかった一日でした。

《コーチ所見》

直前に観戦していた準決勝高尾さんvsカラースさんのハイレベルな戦いに比べると、ボールを奪う気迫、自分の役割へのひたむきさが、今の南には圧倒的に不足しています。

高尾戦の2失点は、いずれも周りに任せきりになってしまった、意識の持ち様で防げる展開でした。持つ力以上の必死さを全員が示せば、これだけの人数で挑めるチーム一丸で全力を出し切れたら、もっと試合を楽しみ、もっと強くなれるはず。皆で楽しめた前日の祝勝会を、もっとたくさん開催できるように、強くなっていこうね。

by 田邊コーチ

